

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立堺工科高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職希望生徒の就職一次試験合格率向上 ・ 就職定着率の向上 ・ 志願者数の募集定員比率の向上
計画名	工科高校の活性化をめざし、プロフェッショナルをめざす中学生の開拓を進める

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 工業教育の充実</p> <p>(1) 「深化と接続」の理念を生かした工業教育を推進する。</p> <p>(2) キャリア教育を一層推進し、一人ひとりの進路実現の充実を図る。</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 学年段階ごとに系統的なキャリア学習を行うとともに、一人ひとりに応じた学習環境の改善等に取り組む。(就職一次試験合格 85%)</p> <p style="padding-left: 20px;">イ インターンシップや企業見学、企業経営者による講演等の機会を充実し、仕事観の醸成を図り、卒業後の定着率（離職率 10%以下）の向上をめざす。</p>
事業目標	<p>工科高校が共通で抱える下記の課題につき、本校がリーダーシップをとり事業を進める。 (課題)</p> <p>① 大阪のものづくり産業基盤を支える後継者の育成が工科高校の使命である、後継者不足に悩むものづくり現場に優秀な人材を輩出するため、工科高校を志願する生徒を積極的に開拓する必要がある。</p> <p>② 就職希望者の一次試験合格率が 79% (H27 実績) にとどまっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生、その保護者や中学校教員向けに工科高校の実情、魅力を伝える DVD やリーフレットを作成する。 ・ 中学校訪問や、中学生を招く体験授業において、中学生のみならず保護者、中学教員にも DVD やリーフレットを活用し、「ものづくり」について、現状や魅力を発信する。 ・ ものづくりに興味を持つ中学生を開拓し、工科高校にその中学生が志願し入学することにより、一層教育の質が向上し、企業が求める人材育成が促進する。 ・ 堺工科では就職希望者の一次試験合格率 85%以上とする。また、3年以内の離職率を全国平均の 10%以内を維持する。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート PC (1台) 中学校訪問や中学進路指導者の会議などで、広報活動を行う際に使用する。また体験授業等に保護者、中学校教員を招いた際、従前のように会議室等で説明会を行うだけではなく、実習現場でも実施することにより、より一層「ものづくり」の魅力を伝えることができる。 ・ PR 映像 ・ リーフレット (5000部)

取組みの 主担・実施者	主 担： 企画会議（校長、教頭、事務部長、普通科科长、各専門系 系長） 取組みの実施者： 全教員
本年度の 取組内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 府立工科高校の魅力発信PR映像及びリーフレットの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ PR 映像については教育庁と連携し、「Be Professional 大阪府立工科高校魅力化推進プロジェクト」のメインコンテンツとして公開中。 ・ リーフレットについては、公立高校進学フェアで配布したほか、各工科高校における学校説明会や進学相談会、中学校訪問等において、工科高校についての理解を深める広報資料として活用した。 2. ノートPCの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校においては、8月の中学生の体験入学、10月の学校見学会など学校内での活用だけでなく、旧第4学区合同説明会（8月、堺市）などの場において、ノートPCを活用して、学校紹介ビデオや「府立工科高校の魅力発信PR映像」を放映し、工科高校やものづくりの魅力発信に努めた。 ・ 情報発信力の強化を目的として、学校ホームページの更新や携帯電話を通じた保護者等への情報提供ツールの管理・配信にも活用した。
成果の検証方法 と評価指標	<ol style="list-style-type: none"> ① 就職希望生徒の就職一次試験合格률을 85%に引き上げる（平成27年度 79%） ② 就職後3年以内の離職率を全国平均（H27実績は10% 全国工業校長会調査）以下とする。 ③ 志願者数を募集定員数の102%とする。
自己評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 就職希望生徒の就職一次試験合格率については、27、28年度の79%から、29年度は84.6%、30年度は90%へと大幅に向上した。……………（◎） ② 就職後3年以内の離職率については、本事業における成果が生まれてくるのは本事業により、工科高校に魅力を感じて積極的に入学してきた生徒が就職する数年先であり、その時点で検証する必要があるため、現時点においては評価の対象外とする。……………（—） ③ 平成31年度入学志願者は、募集定員を大きく上回り、111%となった（29、30年度志願者は109%）。……………（◎） これは、全教員が一丸となって、中学生やその保護者、中学校教員などに、学校説明会や進路相談会、中学校訪問等の様々な機会を捉えて、工科高校の魅力を伝えていった結果であり、その際には、本事業による成果物が有効に役立ったものと考えられる。
事業のまとめ	<p>（成果と今後の取組み）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校においては、この3年間、目標を上回る志願者を確保することができた。 これは、本事業により整備したPR資料や映像等を活用し、学校全体で工科高校の魅力の周知、知名度の向上に取り組んできた結果と考えられる。今後も、中学校卒業生数が減少していく中、中学生やその保護者、中学校教員などに対する情報発信をさらに継続し、ものづくりの魅力、技術を身に付けることのおもしろさを広く伝えていくことで、工科高校をめざす生徒の開拓につなげていく必要がある。 2. 就職一次試験合格率については、目標以上の成果をあげることができた。 これは、職を巡る環境に恵まれたことも一因ではあるが、本校のめざす、技術の習得、資格の取得を通じた人材育成が企業側にも認知されてきた賜物と考えられる。 今後、これまで以上に、工科高校の存在意義を高めていくため、社会に必要とされる人材育成に向けて、生徒一人ひとりに合ったきめ細かい学習指導や進路指導の充実に努めていく必要がある。 3. 工科高校全体としては、教育庁とも連携し、公立学校進学フェア、大阪府産業教育フェアなど、様々な機会を捉え、工科高校の魅力発信に努めていく。